

日朝人民の戦闘的友誼を築こう

革命の旗

共産主義者同盟
(革命の旗)
中央機関紙

第39号
1981.5.5
4頁 150円
(毎月5日、20日発行)

発行人 北沢晋
発行所 赤流社
電話 (03)787-7699
東京都世田谷区千歳
郵便局 私家箱4号
振替 (東京)7-86947

定期購読料(22回分)
手渡し3000円
開封3500円(送料共)
密封4000円()

日米帝の韓国植民地化、南北分断固定化をうちやぶろう！

昨年五月、われわれを真底から感動させ、また支配者どもへの限りなき怒りをほうふつとさせた光州蜂起から、一年目を迎えるようになっている。全斗煥による血の弾圧以来、朝鮮南部人民の闘いは、日米帝や独裁者達の悪態とは反対に増々根本的な社会変革へのゆるぎない流れを見せている。光州蜂起は、七九年の馬山・釜山での都市労働者暴動をひきつづぐものであったし、アジア民族解放闘争の八〇年代への新たな胎動を示したといえる。借款経済の破綻とともに都市部での労働者の争議が拡大し、民主・統一運動の強固な基礎を形成しつつあるといえる。今年一月三日、清溪被服労組がろう城闘争に突入した。全斗煥は、こうした力に恐怖し、労働関係法の一連の改悪をもつて、予防鎮圧をせんとしている。だが、それは光州蜂起が示した軍事独裁との対立点を一層拡大させずにはおかないだろう。

七九年十月六日、朴射殺は十月馬山・釜山での民衆暴動による支配層内部の亀裂によって生み出された。そして、朝鮮南部人民の民主回復闘争は広範な大衆運動として高揚し、シパラムとよばれる大きな流れを形成したのである。

だが全斗煥を始めとする維新残党は、こうした人民の運動に追いつめられ、反対派を根こそぎ投獄し、全政の活動を禁止し、光州の三〇万人に及ぶ人民蜂起を直轄の特戦団によって弾圧した。そして韓国の反独裁民主化、国民経済の自立化をうたい、被圧大衆からもつとも信頼されていた金大中氏を「国事犯」として逮捕し、民主回復運動を圧殺せんとした。

しかし、光州市での虐殺、金大中氏等へのいじめ、死刑判決は、朝鮮人民の怒りはいっにおよばず、全世界の労働者人民の非難にあわねばならなかった。それ故に、一月三日には「死刑」から「無期」へ減刑することをめぐって何となくの批判からのがれ、非常戒厳令の撤回、大統領選挙、国会選挙等をもって「民主」のポーズをとろうとしてきた。だがその実態たるもの、戒厳令なき戒厳体制にほかならないものである。全斗煥が日帝の経済借款によつてのりきりとする経済政策は、一産業一企業による大合理化を労働者に強い、増々「借款



われわれは
闘いの旗を
降ろしたわけではない

光州一九八〇年五月

朝鮮人民と連帯し、日本労働運動の階級的・戦闘的再生を

二月三日のレーガン・全斗煥大中氏への抹殺をはかり、民族民主革命勢力の「弱体化」をすめながら、日帝の新植民地支配体制を全斗煥に再び整えさせることを意図したものである。とりわけ、全世界的に民族解放闘争が高揚し米帝が後退し、ソ社帝が第三世界への侵入をはかりながら世界支配権をうたつた、ようとする情勢にあつて、日帝は朝鮮半島を自らの生命線として強く意識し、東アジア地域での軍事的行動能力を飛躍的に高めるためである。すなわち、日米安保体制下での日帝の政治・軍事的意図は、アジア集団安保形成の中核となり、東アジアでは米日韓の三角同盟を強化することによる、南北朝鮮分断固定化、対南戦争と民族解放闘争への反革命的防壁を固めていくことに他ならない。

朝鮮南部人民への経済的屈従と政治的圧迫のうえに、更に

二月三日のレーガン・全斗煥大中氏への抹殺をはかり、民族民主革命勢力の「弱体化」をすめながら、日帝の新植民地支配体制を全斗煥に再び整えさせることを意図したものである。とりわけ、全世界的に民族解放闘争が高揚し米帝が後退し、ソ社帝が第三世界への侵入をはかりながら世界支配権をうたつた、ようとする情勢にあつて、日帝は朝鮮半島を自らの生命線として強く意識し、東アジア地域での軍事的行動能力を飛躍的に高めるためである。すなわち、日米安保体制下での日帝の政治・軍事的意図は、アジア集団安保形成の中核となり、東アジアでは米日韓の三角同盟を強化することによる、南北朝鮮分断固定化、対南戦争と民族解放闘争への反革命的防壁を固めていくことに他ならない。

朝鮮南部人民への経済的屈従と政治的圧迫のうえに、更に

- ### 集会案内
- 5/10 「沖繩—自立解放の道へ向けて」映画・講演・文化交流の夕べ
 - 5/16 19 韓国民民主化支援緊急世界大会
 - 5/17 五月一六(土)一九日(火)新総評会館(千代田区神田駿河台) 日本教育会館(八日) 主催代表会 世界大会事務局
 - 5/23 狭山集会
 - 5/24 三里塚現地闘争集会(検町公園) 主催 同
 - 5/10 放の道へ向けて
 - 五月十日 板橋勤労福祉会館 呼びかけ 沖繩研究会
 - 80年代実行委
 - 5/15 沖繩解放総決起集会(油本社前行動) 六時(本集会) 検町公園 主催 同
 - 5/16 19 韓国民民主化支援緊急世界大会
 - 五月一六(土)一九日(火)新総評会館(千代田区神田駿河台) 日本教育会館(八日) 主催代表会 世界大会事務局
 - 5/23 狭山集会
 - 5/24 三里塚現地闘争集会(検町公園) 主催 同

民に日帝への隷属化をすすめる、全斗煥軍事独裁のもとでの低賃金労働体系による産業報国会運動に他ならない。例えば韓国女子労働者一月の賃金二万円という状態は、他方ではわが国の同盟・JC等労働者階級にとつてみれば、それだけ己れの帝国主義的分け前が大きくなるというところを前提としているのである。だから、同盟・JC—民社党が「国益第一」をかかげ、日米安保「日韓」安保の積極的推進役をかって出ていることは、帝国主義の危機を独占資本と一体となつてのりきりもつて自らの特権的地位の延命を策するといふ意図に他ならない。

これに比して確かに総評—社会党は救出運動を闘うには闘った。しかし、「減刑」以降、「一応死刑はまがれた」とばかり急速に運動から引退した。また共産党自身、光州蜂起に対し「日本を第二の光州にするな」という社会排外主義的立場のもと、金大中氏救出運動では鈴木政府に対し「金大中氏謀殺計画の即時停止と政治犯釈放を韓国軍事ファッショ政権に厳重に申し入れよ、金大中事件の『政治決着』の撤回、原状回復の措置をただちに実施せよ、韓国軍事ファッショ政権への支持・援助の即時停止」をかかげた。ここには

S.27 PM 6:00

いま沖縄では、「自衛官募集業務」反対、「主任制導入」粉砕の労働運動が高揚している。七八年、平良知事の死去にもなるとなると、知事選挙は西銘（保守）対知花（社大党）の争いであった。知花は革新派十年の成果とその堅持を訴え、「反戦平和」を掲げ、「失業問題への取り組み」を政策とした。他方、西銘は「労働集約型の企業誘致、大型公共投資による雇用の安定」と「安保の肯定」という態度を示した。結果は西銘が三万票に近い大差で勝利、西銘県政の登場となった。

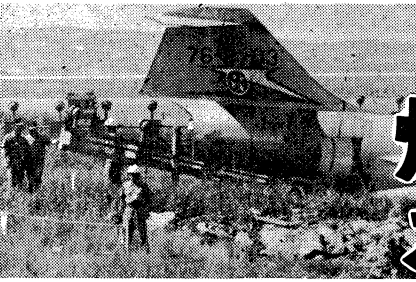
そこには復帰後七年の沖縄人民の意識と社会状況の変化を考察することなしに、西銘県政の登場を説明はできない。いま、沖縄解放運動をすすめるにあたって「復帰」による沖縄の社会的変化、沖縄人民の状態を考察することなくして闘いの発展・沖縄の自立と解放を闘い続けることはできない。そのため現在の沖縄労働運動の闘いと反戦平和運動の関係を検討し、考えてみたいと思う。

「復帰」後の沖縄の政治・社会・経済状況

「復帰」後九年目がとうとうとうとう。あとも変わらぬ「本土」の1%の面積に基地面積が11%を占め、在日米軍基地の53%が集中している現実。またそのことが「沖縄問題は終わった」とする部分の言い分を粉砕している。

「復帰」に伴って自衛隊が上陸し、米軍基地を維持する為の特別法を作り、大量の金をバラまいてきた。「本土」資本の土地買占めや「通貨」切り換え、更にそれを輪をかけての海洋博であった。インフレと企業倒産によって沖縄人民の生活を圧迫してきたのである。事実をみている。

那覇空港に着陸失敗し大破した自衛隊機



主任制導入・自衛官募集業務粉砕！ 燃えあがる沖縄大衆闘争

真栄田 実

「復帰」後九年目がとうとうとうとう。あとも変わらぬ「本土」の1%の面積に基地面積が11%を占め、在日米軍基地の53%が集中している現実。またそのことが「沖縄問題は終わった」とする部分の言い分を粉砕している。

「復帰」に伴って自衛隊が上陸し、米軍基地を維持する為の特別法を作り、大量の金をバラまいてきた。「本土」資本の土地買占めや「通貨」切り換え、更にそれを輪をかけての海洋博であった。インフレと企業倒産によって沖縄人民の生活を圧迫してきたのである。事実をみている。

主任制導入粉砕を闘う沖縄の教育労働者

米軍の全軍への大量首切り攻撃や通貨切り換え、更に海洋博工事にもなるとなると、労働運動は「賃上げ」闘争をめぐる激烈な闘いとして闘い抜かれた。七二年から七三年は五十三件のうち、三六件が「賃上げ」に関するものであった。ところが海洋博後の三年は中小

中小企業の倒産と労働争議の状態

米軍の全軍への大量首切り攻撃や通貨切り換え、更に海洋博工事にもなるとなると、労働運動は「賃上げ」闘争をめぐる激烈な闘いとして闘い抜かれた。七二年から七三年は五十三件のうち、三六件が「賃上げ」に関するものであった。ところが海洋博後の三年は中小

「平和憲法」の幻想突き破り
自決と解放めざす闘いを

いま沖縄人民は、日常生活のなかで「日本国憲法が、平和憲法などではない、独占資本の支配をおおひ隠すいじくく業にすぎない」とをひしひしと感じつつあるといえよう。だから、護憲運動で沖縄人民の主体的運動をつくることは、激化しつつある日米帝との矛盾を、沖縄人民の側から一層促進させず、あいまにさせる役割を担うものといわざるをえない。

一方、あらたな運動が生み出され、沖縄労働運動自身の指導的役割を要するものになっていくのを見る事ができる。

反戦地主会は、七七年には法的「空白」をつくりだし、今また公用地法期限切れに対して、契約拒否で闘っている。政府はこの闘いに対して米軍用地特措法によって「強制収用」をはかっており、事態はますます悪化する局面になっている。また、反CTSを闘っている金武湾を守る会は「海と大地と共同の力」

右翼的「労戦統一」はすでに労働貴族たちの間で既定の方針として確定し、今夏にもその具体的合意事項が発表される運びとなっている。こうしたなかで左派の職場活動家は自己の階級的立場を確立し、反撃のための全国的戦線を確立することが急がれている。

こうした左派活動家をつなぐ媒体として、今日重要な役割をはたしている『労働情報』の編集人である樋口篤三氏の論文集とでもいべきものがこの本である。

もともと、氏をよく知る人々には理論家としての樋口氏より、労働者の集いで大きなジェ

右翼的「労戦統一」はすでに労働貴族たちの間で既定の方針として確定し、今夏にもその具体的合意事項が発表される運びとなっている。こうしたなかで左派の職場活動家は自己の階級的立場を確立し、反撃のための全国的戦線を確立することが急がれている。

こうした左派活動家をつなぐ媒体として、今日重要な役割をはたしている『労働情報』の編集人である樋口篤三氏の論文集とでもいべきものがこの本である。

もともと、氏をよく知る人々には理論家としての樋口氏より、労働者の集いで大きなジェ

右翼「労戦統一」反対

樋口篤三著

本書を、今日帝国主義運動運動のちようろう、ばつこのなかで、なおかつ階級原則を堅持して闘いぬかんと苦闘している闘う労働者にむけて発していることを意味している。しかも、今日

日帝・西銘県政の反動攻勢と労働運動の課題

西銘知事の誕生に際して政府は「沖縄施策がやりやすくなる」と手放しで歓迎の意を表わした。実際、西銘は政府を喜ばせてもってきたこの戦闘性をみつと衛隊を激発し、軍事演習を容認し、労働者との対決を前面に押し出してきている。西銘は「雇用の安定化」をのぞいて公約通りのことをやっている。その最大のものが「自衛官募集業務」や「主任制」導入による「拳闘」や「主権制」導入による「拳闘」の骨抜きに他ならない。

昨春闘人の闘、自衛官募集業務反対闘争へ復帰後初めての処分攻撃が、一四七名にかけられた。この処分を執行は、「連日の責任の度合をもつてした」と、労働運動への攻撃の意図を公然といはなっている。

今日、政府が「行革」の名のもとで国家機構を強化し、総合安保体制づくりをいそぎ、戦争準備を整えんとしているが、沖

労働運動の発展と「復帰」運動の総括

「主任制問題はどうか。前田県教育長は七六年の沖教組、高教組と結んだ文書協定」「主任制については、現場職員および教育団体の合意なしには一方的に実施しない」という一・二・三協定を一方的に破棄し、四月一日実施を強行している。これに対し、県労協・沖教組・高教組・全水道・自治労は五者協議

セクト主義 主観主義排し
共同行動の強化を

4.19~20全国学生共同闘争に66大学、千余の学友が結集。

四月十九日、明治大学和泉校舎において、全国学生総決起集会が開催された。

昨年十一月一八以降、右翼反憲学連による学内白色テロ支配に抗し、一月入構闘争、そして四・八入学式情真、四・一五一八自主募集貫徹の闘いを通じ、



反憲学連一生長の家本部に向けた戦闘的デモ(四・二〇) (学生通信員M)

